

新型コロナウイルス感染症 今、わかっていること



日本救急医学会救急科専門医
日本集中治療医学会集中治療専門医
インфекションコントロールドクター (ICD)
堀 雅俊

堀せんせいに
聞いてみよう!

パート
2

「教えて堀せんせい」

よく聞く**5類**ってどういうこと?

感染症法では、症状の重さや病原体の感染力などから、感染症を分類しています。
今回の新型コロナウイルスCOVID19は発生当初より**2類相当**に分類されていました。すでに報じられていますように、現在流行しているオミクロン株が主体のままであれば2023年5月から5類感染症へ変更されることとなりました。



感染症法に基づく分類

移行
5月
2023
年
より

- 1類 エボラ出血熱、ペストなど
- 2類 結核、SARSなど
- 3類 コレラ、腸チフスなど
- 4類 サル痘、黄熱、狂犬病など
- 5類 季節性インフルエンザ、梅毒など

5類に変更になったら何が変わるの?

就業制限や行動制限等の法的な拘束力はなく、感染予防の方法や隔離を実施するかどうかは、みなさまの判断に委ねられます。
注意しなければならないことは、**5類感染症に変わっても、ウイルスは変わらず存在し、ヒトからヒトに感染し、時に重症化を巻き起こしていく**ということです。

この記事執筆中である1月末時点では、マスクなどの感染対策については、「行政が一律にルールとして求めるのではなく、個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断に委ねる」ことを基本として検討されています。



ずばり、堀先生はマスクどうしますか?

私は継続するつもりです。
あまりにも長期間にわたるマスク生活のため、「早く元の生活に戻りたい!」、誰もがそう感じていることと思います。
しかし、例年多く発生していたインフルエンザが2020/21シーズンと2021/22シーズンはほぼ報告されませんでした。人の移動が制限されたことも要因かもしれませんが、国民みんなが**マスク・手洗い・消毒を実行したことが非常に有効であった**と考えられます。マスク装着によるデメリットは、表情がわかりにくい・肌荒れ・マスク購入に伴う出費増大などが考えられますが、個人的にはマスクそのものによる不便はそれほど感じておりません。



私にはまだ小さな子がおり、また両親はすでに高齢者になっています。それぞれ充実した生活を送っていますが、COVID-19にかかわらず、たとえば私がマスクなどの感染対策をしないことで風邪などをひき、それを子や両親にうつしてしまった場合、彼らの充実した生活を壊すことになりかねません。もちろん、私以外からもウイルスなどをもらって来ることもあるでしょうが、私が感染源になって彼らの機会を奪いたくはないのです。

このように、私にとっては**マスク装着や手洗い・消毒は費用対効果が大きい感染対策**だと思っています。



※2023年2月末までの情報をもとに作成